

令和4年度 学校自己評価

2023. 2. 24

上田市長和町中学校組合立依田窪南部中学校

昨年度比 (A,B評価) **+5%以上**

-5%以上

1. 結果と考察

※グラフ左から A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：ややあてはまらない D：あてはまらない

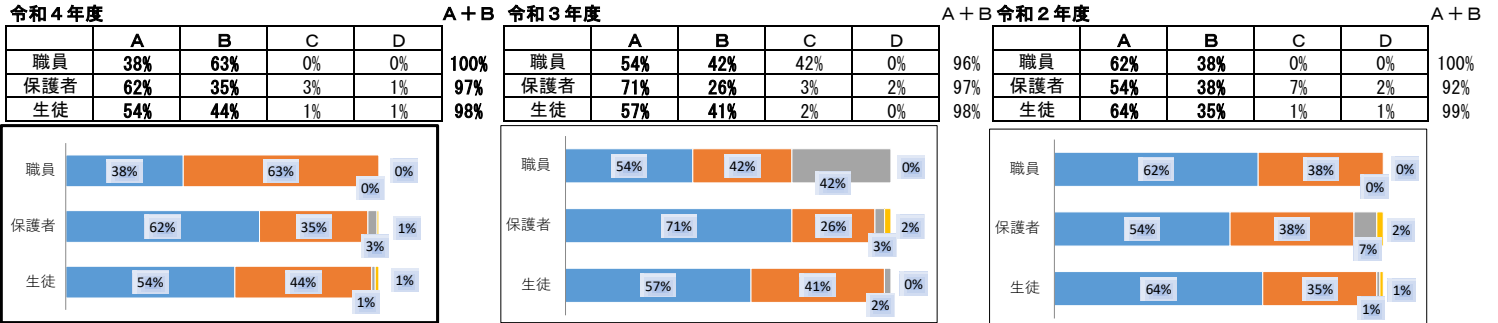
【質問項目1】 集団との関わり

【職員】 ①学級活動、生徒会活動、行事等で、生徒一人ひとりに役割を持たせることで、生徒が主体的に級友とかかわって活動しています。□

【保護者】 ①授業参観や生徒（お子さん）の話から、生徒（お子さん）は級友と仲良くかかわりながら学校生活を送っていると感じる。

【生徒】 ①学級活動、生徒会活動、行事等では、自分の役割を果たしながら、クラスのみならず、学校全体と協力しています。□

	生徒	保護者	職員
調査数	174	173	24



<考察>

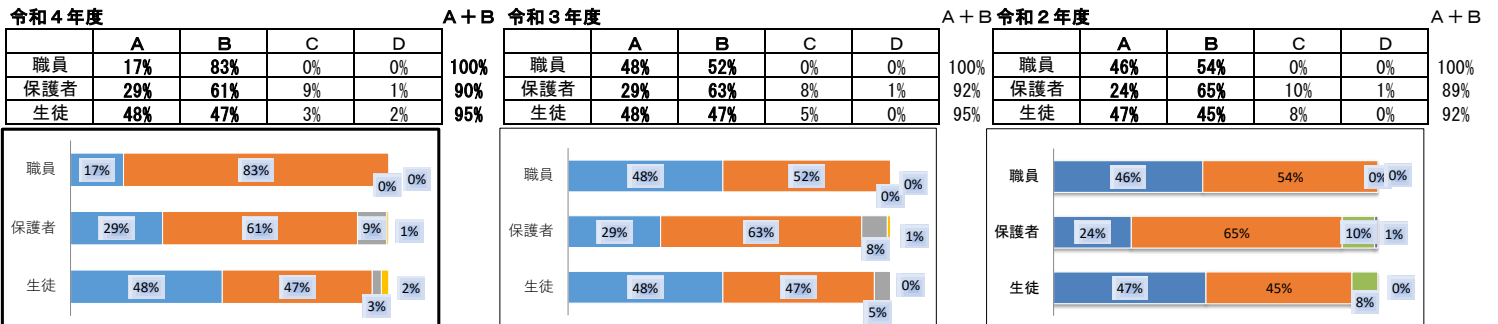
A B評価が三者ともに高い水準となっている。コロナ禍が継続した今年度、活動が制限されることもあったが、今後はできる範囲で子どもの学びを深める活動を考えていく。また、生徒一人ひとりがより豊かなかかわりができるよう支援していく。

【質問項目2】 友だちとの関わり

【職員】 ②集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えさせることで、生徒が友だちの気持ちを考えたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら学校生活を送っています。

【保護者】 ②生徒（お子さん）は、相手の気持ちを大切にしたり、自分の考えを相手に伝えたりすることができる。

【生徒】 ②集団の中の自分の姿や集団のあり方を考えることで、友だちの気持ちを考えたり自分の気持ちを相手に伝えたりしながら、学校生活を送っています。□



<考察>

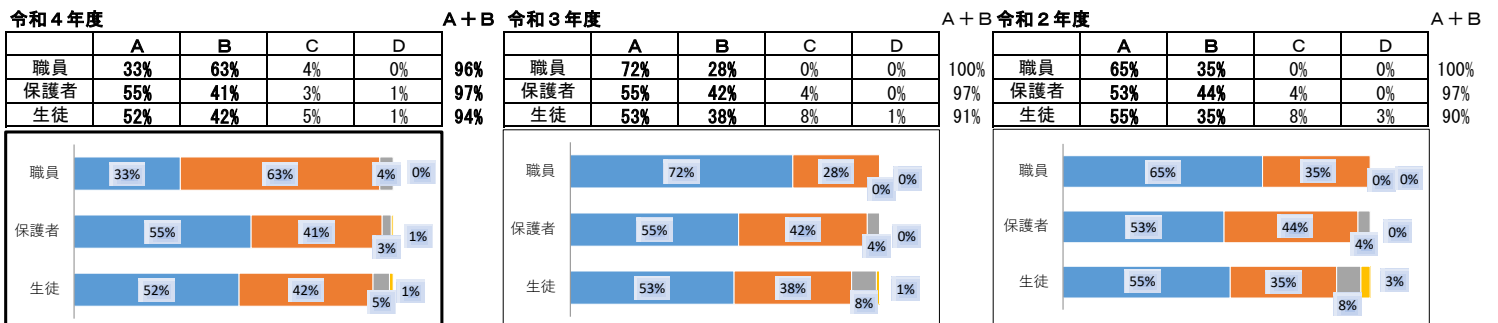
A B評価が三者ともに高い水準となっている。多くの生徒は、集団の中で相手の気持ちを大切に考えて行動したり、自分の考えを相手に伝えたりできている。しかしながら、C D評価の生徒が数名いたことにも目を向け、心を寄せた支援を考えていく。

【質問項目3】 達成感や楽しさ

【職員】 ③学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、人間関係づくりの場や生徒自らが主体的に活動に取り組む場を設定することで、集団としてのまとまりが向上し、生徒一人ひとりが個々の良さを発揮できています。

【保護者】 ③学校での集団活動を通じて、生徒（お子さん）が成長していると感じる。

【生徒】 ③学級活動、生徒会活動、行事、部活動等で、達成感や楽しさを感じながら、自分から積極的に活動に取り組んでいます。□



<考察>

昨年度と同じく高い評価となっていて、学校生活に満足感を感じ、自分の成長を実体験できる生徒の姿がわかる。コロナ禍で制約を受けることが日常となっている中、主体的かつ積極的に集団活動に取り組み、自己の能力を高め、個性に磨きをかけていこうとする点が素晴らしい。さらに伸ばすよう、支援を重ねていく。

【質問項目 4】 相談・生徒理解

- 【職員】 ④生徒を深く理解し支援するために、生徒の実態把握に努め、生徒に声をかけたり相談に乗ったりしながら、日々個々に応じたかかわりを持つことができています。
 【保護者】 ④学校の職員は生徒（お子さん）の理解に努めたり、何かあったときは相談に乗ったりしてくれます。
 【生徒】 ④先生は自分のことをわかってくれたり、困った時は相談に乗ったりしてくれます。

令和4年度 A+B

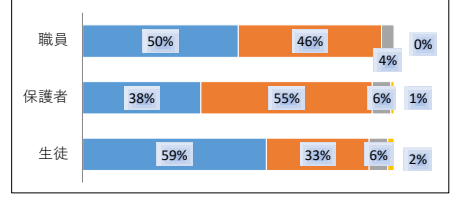
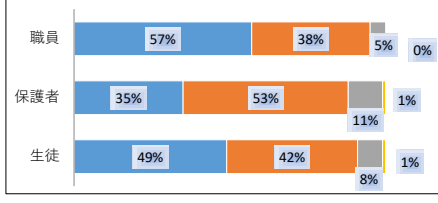
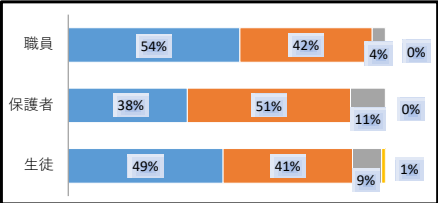
	A	B	C	D
職員	54%	42%	4%	0%
保護者	38%	51%	11%	0%
生徒	49%	41%	9%	1%

令和3年度 A+B

	A	B	C	D
職員	57%	38%	5%	0%
保護者	35%	53%	11%	1%
生徒	49%	42%	8%	1%

令和2年度 A+B

	A	B	C	D
職員	50%	46%	4%	0%
保護者	38%	55%	6%	1%
生徒	59%	33%	6%	2%



<考察>

保護者のA B評価について、昨年度と比べると1%増加しているものの、一昨年度と比べると4%減少している。また、生徒のA B評価は、一昨年度から2%、昨年度から1%の減少となっている。職員は生徒一人一人の個に応じた支援を積み重ねていくとともに、生徒との関係のみならず、保護者との信頼関係をよりよいに築き、開かれた学校づくりに努めていく。

【質問項目 5】 人権教育

- 【職員】 ⑤人権教育や日々の教育活動の中で、生徒の人権感覚を高め、いじめや差別のない集団づくりに関わろうとする気持ちを育てています。
 【保護者】 ⑤生徒（お子さん）は、人権教育での取り組みや日々の学校生活を通して、人のことを大切に思う気持ちや、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていかうとする気持ちが育ってきていると感じる。
 【生徒】 ⑤南中人権宣言を尊重し、人のことを大切に思う気持ちと、いじめや差別のない集団づくりにかかわっていかうとする気持ちを持っています。

令和4年度 A+B

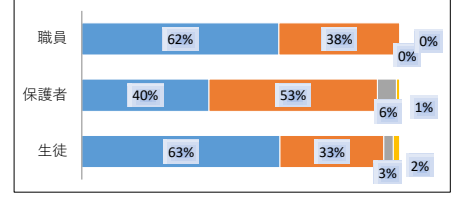
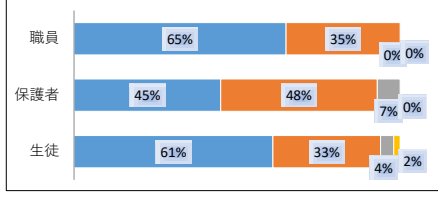
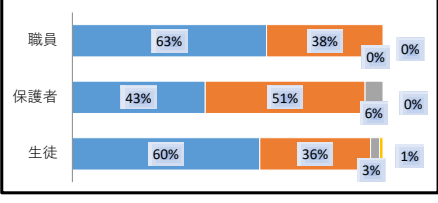
	A	B	C	D
職員	63%	38%	0%	0%
保護者	43%	51%	6%	0%
生徒	60%	36%	3%	1%

令和3年度 A+B

	A	B	C	D
職員	65%	35%	0%	0%
保護者	45%	48%	7%	0%
生徒	61%	33%	4%	2%

令和2年度 A+B

	A	B	C	D
職員	62%	38%	0%	0%
保護者	40%	53%	6%	1%
生徒	63%	33%	3%	2%



<考察>

一昨年度及び昨年度と比べて、三者とも大きな変化はなく、高い評価となっている。日常生活の中で、道徳教育が継続的に実施されていることに加えて、1学期と2学期に人権教育月間を設定して、人権教育に積極的に取り組んできた成果と考察できる。生徒が日々「南中人権宣言」を意識して、他者や自分も大切にしている点が素晴らしい。

【質問項目 6】 清掃の取り組み

- 【職員】 ⑥清掃への取り組みの活性化を図ったり、ともに清掃に取り組んで現場指導をしたりすることで、生徒が進すすんで清掃に取り組んでいます。
 【保護者】 ⑥来校した際は、校舎内外の清掃や整頓が行き届いていると感じられる。
 【生徒】 ⑥無言清掃を心がけて、清掃にすすんで取り組んでいます。

令和4年度 A+B

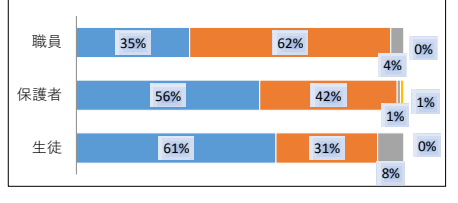
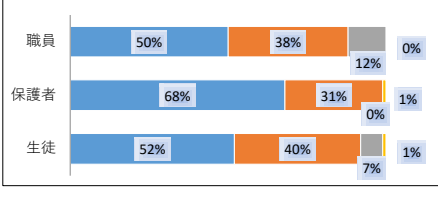
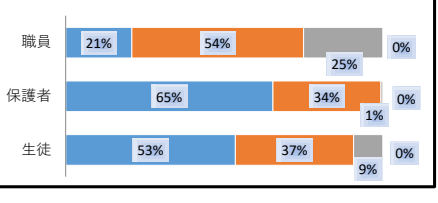
	A	B	C	D
職員	21%	54%	25%	0%
保護者	65%	34%	1%	0%
生徒	53%	37%	9%	0%

令和3年度 A+B

	A	B	C	D
職員	50%	38%	12%	0%
保護者	68%	31%	0%	1%
生徒	52%	40%	7%	1%

令和2年度 A+B

	A	B	C	D
職員	35%	62%	4%	0%
保護者	56%	42%	1%	1%
生徒	61%	31%	8%	0%

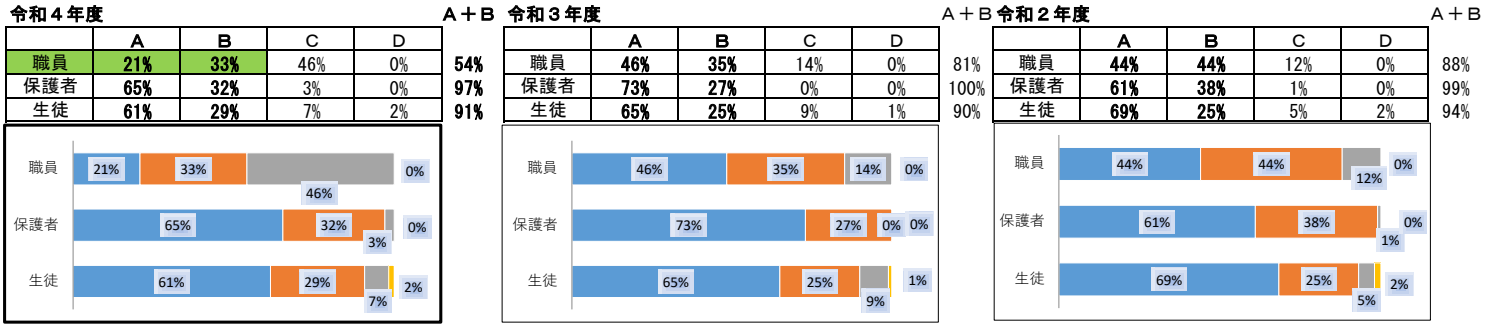


<考察>

昨年度と比べて、職員のA B評価が10%以上も減少している。職員もともに清掃に組み、現場での指導をより一層大切にしたい。また、生徒会活動とも連携し、黙想から片付けまで集中して取り組める清掃することを実践したい。保護者と生徒の高評価は変化していないので、より良い清掃とは何か、三者で考えていくことにも取り組みたい。

【質問項目 7】 下駄箱の靴そろえ

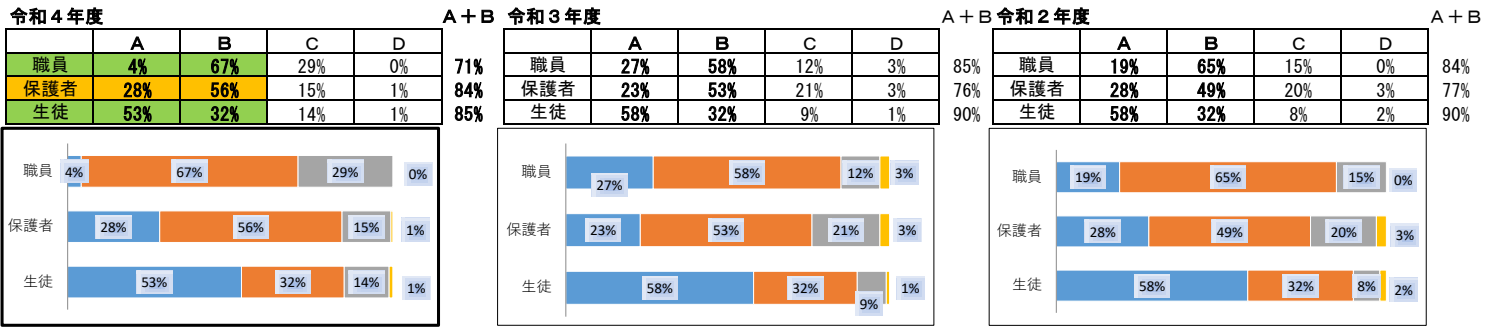
【職員】 ⑦声かけ等の意識喚起によって、生徒がすすんで下駄箱の靴をそろえています。
 【保護者】 ⑦学校の昇降口は下駄箱の靴がそろったり、展示が充実したりし、気持ちのよい空間になっていると感じる。
 【生徒】 ⑦自分からすすんで、下駄箱の靴をそろえています。



<考察>
 昨年度と比べて、保護者と生徒については引き続き、特に高評価となっている。生徒は意識的に下駄箱の靴をそろえ、そのことを習慣化している、と考察できる。一方、職員のA B評価が大きく減少している点は、注意喚起が十分でなかったことや、やや厳しい目で観察していることが要因と推測している。

【質問項目 8】 あいさつ

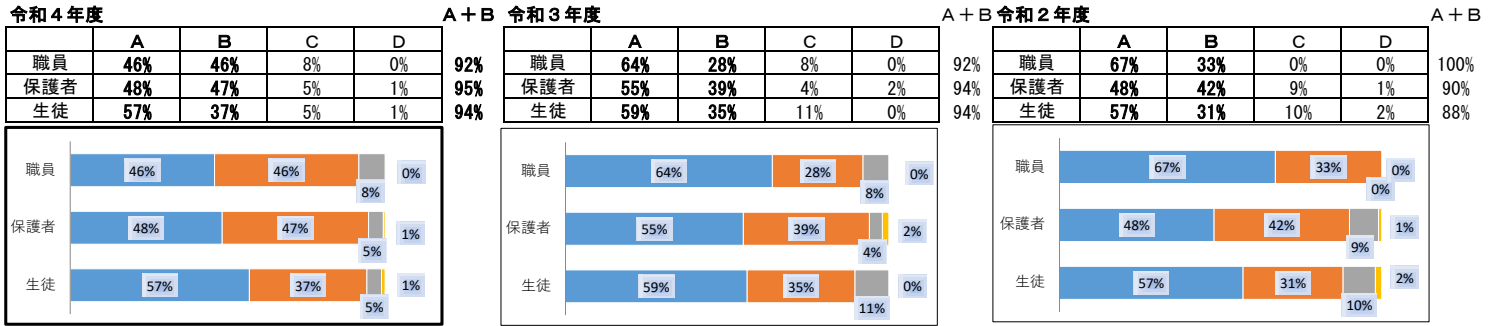
【職員】 ⑧学校、学年、学級、部活動などでの指導を工夫することで、学校や地域で、生徒は一人でもすすんであいさつしています。
 【保護者】 ⑧生徒（お子さん）は、学校や地域ですすんであいさつをしている。
 【生徒】 ⑧学校や地域で、自分からすすんであいさつをしています。



<考察>
 昨年度と比べて、保護者のA日評価が8%増加しているが、職員と生徒のA B評価が大きく減少している。保護者や地域の方が来校されたときには、気持ちの良い挨拶ができるができるが、日々の日常からできているかということに課題があると推測している。まずは、職員が見本を示すことや生徒会と連携してよりよい挨拶ができるよう支援する。

【質問項目 9】 合唱活動

【職員】 ⑨合唱練習を学年集会や学級の活動に位置づけ、練習の時間を確保したり、発表の場を設けたり、職員自ら合唱に参加したりすることで、校内に日々生徒たちの歌声を響かせています。
 【保護者】 ⑨文化祭や授業参観での姿、生徒（お子さん）の話から、南中の生徒は、全校、学年、学級での合唱に意欲的に取り組んでいると感じる。
 【生徒】 ⑨合唱の良さや大切さがわかり、学年や学級、または集会等で、積極的に合唱に参加しています。



<考察>
 今年度もコロナ禍で、思うように合唱活動が出来ない時期もあった。しかし、状況が好転した時期には、クラスや学年が集中して活動に取り組み、大きな成果を得たとほとんどの生徒が認識できた。特に11月の合唱祭では、各クラスや学年のすばらしい歌声が響き、聴く人々を感動させた。今後も、さらに盛り上げていく。

【質問項目10】 家庭学習

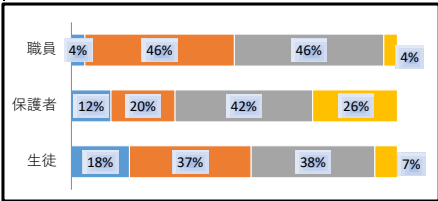
【職員】 ⑩自学タイムを活用して学習計画を立てさせたり、家庭学習の方法や内容を指導したりすることで、生徒が目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）の家庭学習を行っています。

【保護者】 ⑩生徒（お子さん）は、宿題や自主学習等に、学年目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）の家庭学習を行っている。

【職員】 ⑩自学タイムを活用して学習計画を立て、宿題や自主学習をすることで、学年目標時間（1年週70×7=490分・2年週80×7=560分・3年週90×7=630分）家庭学習を行っています。

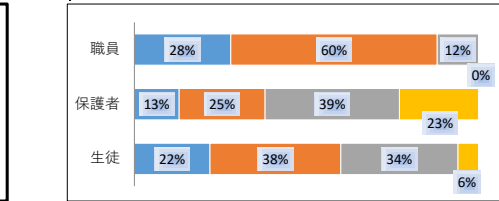
令和4年度

	A	B	C	D
職員	4%	46%	46%	4%
保護者	12%	20%	42%	26%
生徒	18%	37%	38%	7%



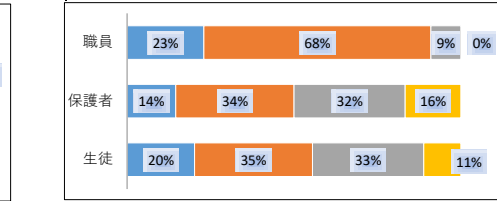
A+B 令和3年度

	A	B	C	D
職員	28%	60%	12%	0%
保護者	13%	25%	39%	23%
生徒	22%	38%	34%	6%



A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	23%	68%	9%	0%
保護者	14%	34%	32%	16%
生徒	20%	35%	33%	11%



<考察>

三者ともに昨年度よりA B評価が大きく減少している。特に注視すべきは、保護者の評価が低く、保護者の3人のうち2人が、子どもの家庭学習をあまり評価していない。それに対して生徒は、2人のうち1人は高評価となっている。今後は、自学タイムのあり方や家庭学習の内容等を再考し、生徒の家庭学習が依り充実したものになるよう支援する。

【質問項目11】 生活習慣づくり

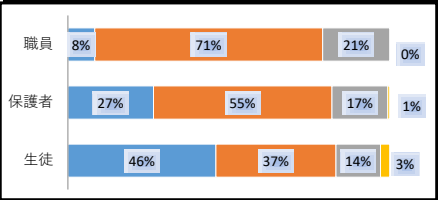
【職員】 ⑪学校からの通知や生活実態調査の結果などを活用して指導することで、生徒がより良い生活習慣づくり（「早寝・早起き・朝ごはん」）に取り組んでいます。

【保護者】 ⑪ご家庭で、お子さんのより良い生活習慣づくり（早寝・早起き・朝ごはん）を意識した取り組みを心がけている。

【生徒】 ⑪より良い生活習慣づくり（「早寝・早起き・朝ごはん」）に取り組んでいます。

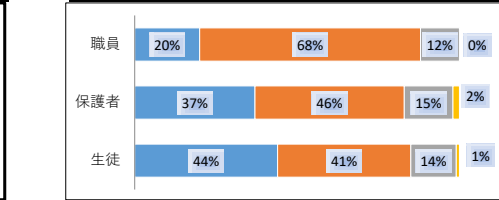
令和4年度

	A	B	C	D
職員	8%	71%	21%	0%
保護者	27%	55%	17%	1%
生徒	46%	37%	14%	3%



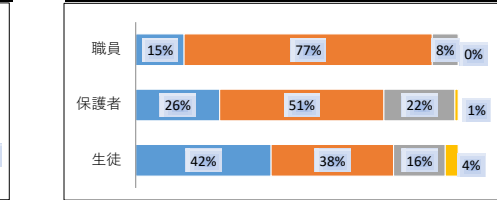
A+B 令和3年度

	A	B	C	D
職員	20%	68%	12%	0%
保護者	37%	46%	15%	2%
生徒	44%	41%	14%	1%



A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	15%	77%	8%	0%
保護者	26%	51%	22%	1%
生徒	42%	38%	16%	4%



<考察>

保護者と生徒のA B評価が、昨年度と同様に高い水準となっている。常に新型コロナウイルス感染防止を意識した、より良い生活習慣づくりが図られている。今後は、生活実態調査の結果を活用し、生徒のより良い生活習慣形成のため支援をしていく。また、家庭との連携を密にとり、幅広く生徒にアプローチする。

【質問項目12】 メディアコントロールの実践

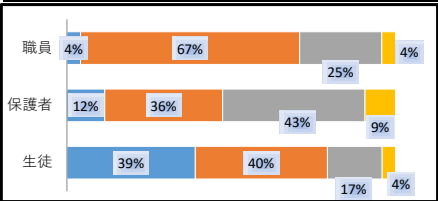
【職員】 ⑫ノーメディアの必要性を指導することで、生徒がそれぞれの目標を持ってメディアコントロールの実践に取り組んでいます。

【保護者】 ⑫メディアコントロールも取り組みは、家庭において家族の会話づくりや学習時間・読書時間の確保等を親子で見直す機会になっている。

【生徒】 ⑫メディアコントロールに取り組むことで、学習時間や睡眠時間の確保について見直すことができています。

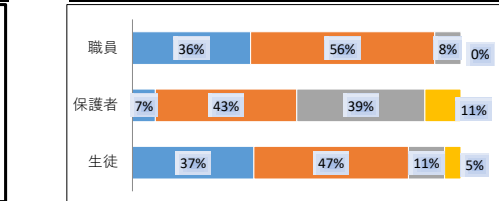
令和4年度

	A	B	C	D
職員	4%	67%	25%	4%
保護者	12%	36%	43%	9%
生徒	39%	40%	17%	4%



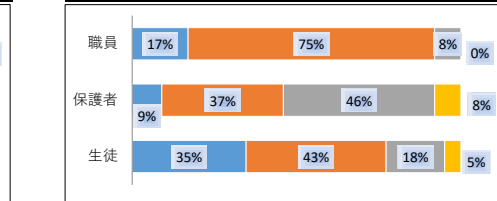
A+B 令和3年度

	A	B	C	D
職員	36%	56%	8%	0%
保護者	7%	43%	39%	11%
生徒	37%	47%	11%	5%



A+B 令和2年度

	A	B	C	D
職員	17%	75%	8%	0%
保護者	9%	37%	46%	8%
生徒	35%	43%	18%	5%

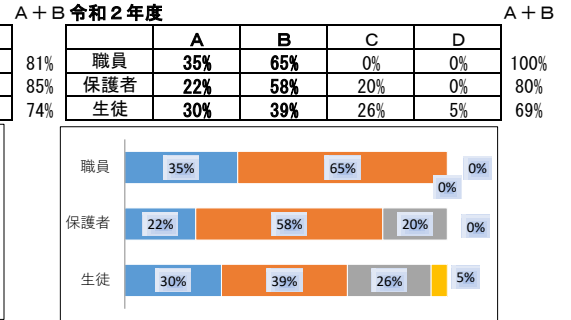
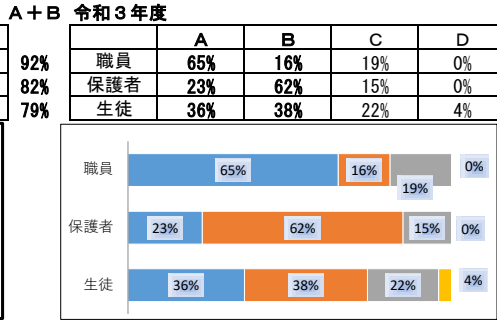
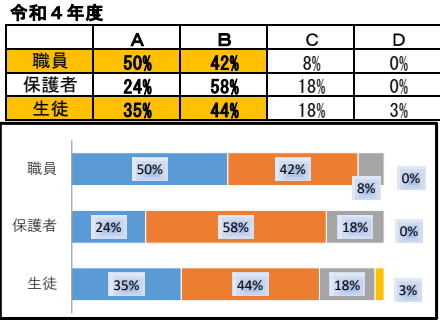


<考察>

子どもと直接接している保護者の評価がやや厳しく、A B評価が半分以下となっている。他の調査結果から、一部の生徒の顕著なメディア依存や、家庭内でのルールづくりなどが課題となっていることが分かる。今年度も取り組んだメディアコントロールデーの意義を明確にし、生徒一人一人がメディアとどのように接していくべきか判断できるよう支援する。

【質問項目 1 3】 地域との連携

- 【職員】 ⑬地域との連携を大切に、教育活動を推進したり、地域の方々と交流したりしています。
- 【保護者】 ⑬お子さんの成長のためにご家庭では、学校や地域との連携を大切にしている。
- 【生徒】 ⑬依田窪地域の自然や農業、工業、商業、観光などについて興味や関心がもっています。

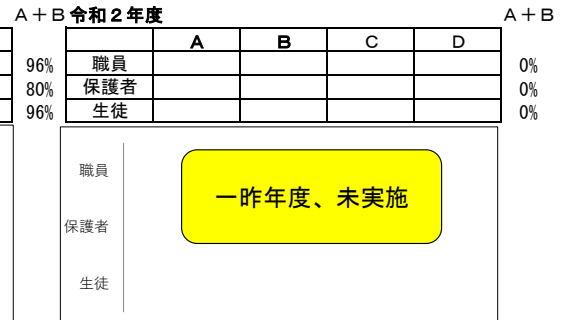
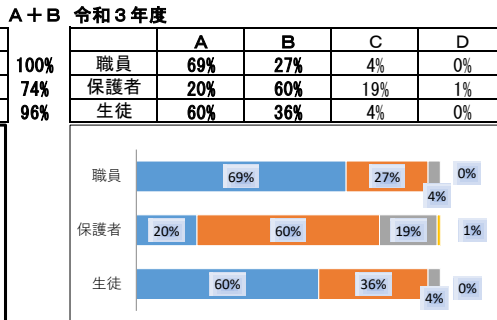
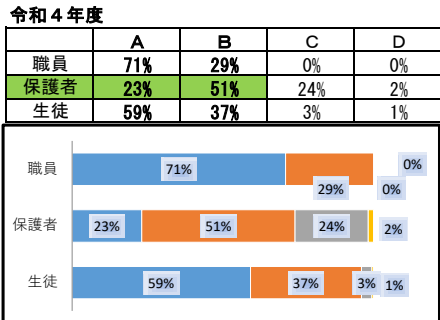


<考察>

職員と生徒のAB評価がいずれも、昨年度と比べて5%以上増加している。コロナ禍により様々な活動が制限されていたが、少しずつ地域へ赴いたり、地域の方に来校して頂き、講演して頂いた成果であると推測する。今後、コロナ禍が継続したとしても、地域の産業や伝統文化に興味関心を高めていけるような学習場面を設定していきたい。また、地域活動・行事への参加を支援していく。

【質問項目 1 4】 総合的な学習の時間（地域学習・キャリア教育）

- 【職員】 ⑭1年：地域発見，2年：職場体験，3年：地域未来プロジェクトの学習を通して、子供たちにこの地域のよさを実感できるようにしています。
- 【保護者】 ⑭生徒（お子さん）は、総合的な学習や行事を通じて地域に関心をもつようになってきたと感じる。
- 【生徒】 ⑭1年：地域発見，2年：職場体験，3年：地域未来プロジェクトなどの学習を通して、この地域のよさを発見したり、実感したりすることができています。

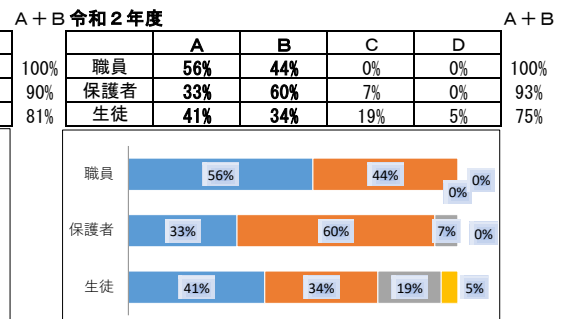
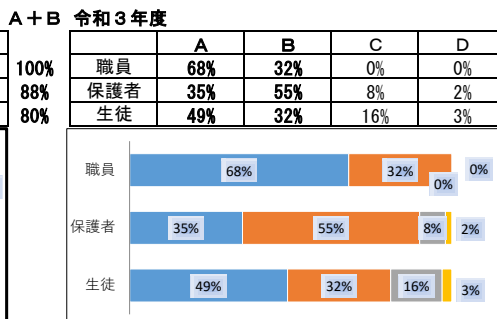
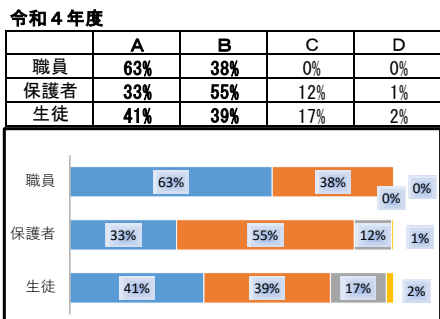


<考察>

職員と生徒のAB評価が高評価になっている。特に、計画 → 実行 → 発表・反省という流れでの学習に対して、積極的に取り組む生徒の姿が多く見られた。また、ともに地域で生きる方々や保護者からの適切なアドバイスが学習をより効果的なものにした。今後は、地域の方や保護者にどのように発信していくか検討したい。

【質問項目 1 5】 家庭との連携

- 【職員】 ⑮保護者の話をよく聞き、家庭と協力しながら生徒を育てることを大切にしています。
- 【保護者】 ⑮学校職員は、子どもや保護者の話をよく聞き、子どもや家庭に対して適切な対応をしている。
- 【生徒】 ⑮家の人と学校での出来事や将来について話すことがあります。

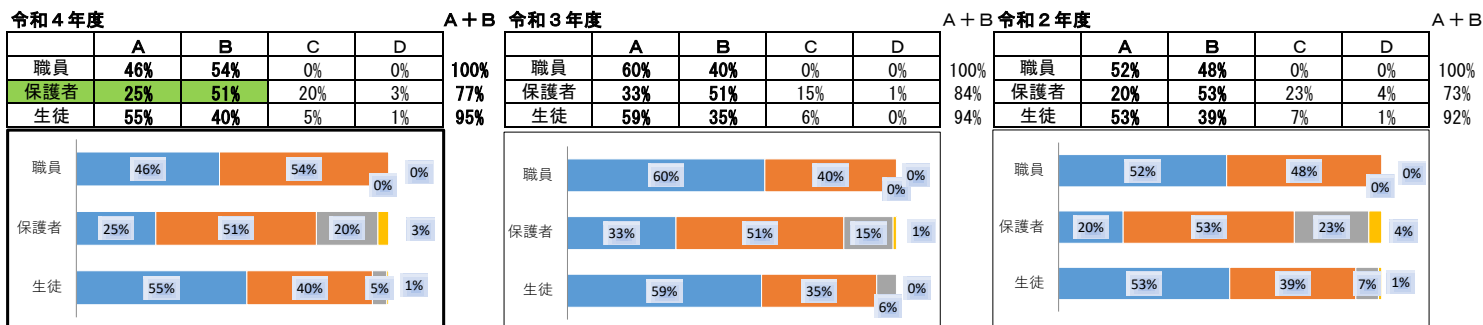


<考察>

昨年度と比べて、三者とも大きな変化はない。年々、キャリア教育が充実して、学校のことや将来の進路選択についての家庭での語らいが充実してきた成果、と考察できる。職員は、保護者や生徒の話を聞く場面を一層増やして、聞いたことに誠意をもって対応していく。

【質問項目16】 家庭との連携（参観日・学校開放）

- 【職員】 ⑩参観日や学校開放日や懇談会などを通して、本校への理解や関心を高めてもらえるよう、努めています。
 【保護者】 ⑩参観日や学校開放日や懇談会などの機会には、学校への理解や関心を高めるために、積極的に参加している。
 【生徒】 ⑩親や家族は学校での活動や行事に関心をもって来ています。

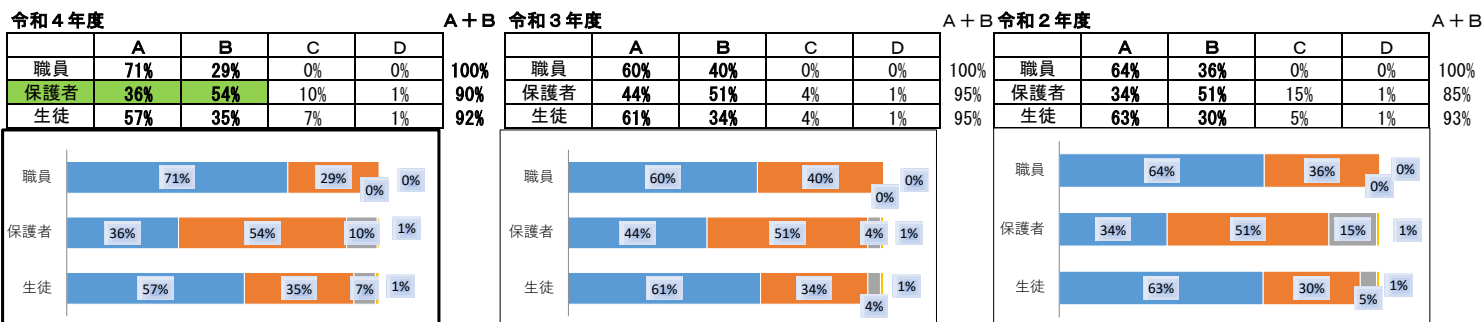


<考察>

新型コロナウイルス感染防止に務めながらも参観日や学校開放を開催した。また、紫苑祭では多くの保護者が来校して、子どもや学校の様子を参観することができた。しかし、保護者のA B評価が昨年度と比べると7%減少している。学校開放のあり方回数など検討したい。

【質問項目17】 学校からの情報発信

- 【職員】 ⑪学校・学年・学級だよりなどで、大切な情報や学校での子供たちの様子を、家庭にわかりやすく伝えています。
 【保護者】 ⑪学校・学年・学級だよりやホームページ等に目を通し、学校の様子を知るよう心がけている。
 【生徒】 ⑪学年・学級だよりは、学校の様子を家に伝えてくれるよい手段になっていると思います。



<考察>

ホームページを新たなものに新設し、学校行事や学年行事、各学年の学年通信や学校だよりも発行のたびにアップしてきた。新設したことを保護者にプリントでお知らせしたが、周知が十分ではなかったことが反省としてあげられる。より多くの方がホームページを見て頂けるよう、さらに工夫を加えていきたい。また、重要なお知らせについては、メール発信を継続していく。

全体の総括

【集団づくり】

○三者ともに、「よくあてはまる」「ややあてはまる」のA B評価が高水準を示している。特に保護者への「授業参観や生徒(お子さん)の話から、生徒(お子さん)は交友と仲良かかわりながら学校生活を送っていると感じる」という質問に対して、A B評価が前年度と同様に高水準となっている。コロナ禍により制限されてきた活動が徐々にできるようになってきた。リモートでの授業や活動も増えてきた中で人と人が相対し、よりあたたかなかわりの場をしっかりと準備し、より豊かなコミュニケーションが図れるよう努めていく。

学校への並々なぬ保護者の皆さんのご協力やご支援がありましたことを、心より感謝します。

○保護者への「学校の職員は生徒(お子さん)の理解に努めたり、何かあったときは相談に乗ったりしてくれます」という質問に対して、A B評価が昨年度比1%ポイントアップの89%となっている。コロナ禍ということもあり、不安や悩みを抱えている生徒や家庭との連絡をさらに強固なものにしていく必要性を感じている。今後も学校や学級という集団に自分の居場所を見つけられなかったり、困っていたりする生徒に対して、彼らの変化や成長に注視し、心に寄り添いながらできる限りの支援を強化していきたいと感じる。生徒のより良い成長を担う上で、家庭と学校との連携は必要不可欠である。今後とも、密な関係を築けるよう努めていきたい。

【習慣づくり】

○清掃と下駄箱の靴そろえについて、保護者と生徒のA B評価は、昨年度とほぼ同水準で高い。一方、職員の評価がポイントダウンしている。生徒と共に活動したり、生徒への声がけをしたりして、生徒の活動をさらに活性化するとともに、良好な学習環境を整える役割を担っていることを自覚していきたい。また、生徒と職員と一緒に清掃をする時間を大切にしたい。

○家庭学習について昨年度比で、三者ともに大きく低水準となった。家庭学習のあり方について再考していかなければならないと考える。家庭学習を通してどのような力をつけるのか子ども自身が理解できるよう支援したい。また、学校と家庭の連携を密にとり、家庭での様子や学校での様子の情報交換を行いながら、より有効な家庭学習となるよう努めたい。

○より良い生活習慣づくりとメディアコントロールについて昨年度比で、生徒と職員のA B評価がポイントダウンとなっている。生徒の評価は昨年度大きく変わらないが、50%を切る評価となっている。情報化社会を生き抜く生徒にとって、SNSやメディアとは切っても切れないものであると言える昨今、どのような付き合い方していくか、生徒自身が考え、判断し、関わっていける力がつくよう支援したい。

【家庭や地域との連携】

○質問項目14の総合的な学習(地域学習・キャリア学習)、15参観日・授業開放、16家庭との連携(参観日・学校開放)、17学校からの情報発信の項目全てについて、昨年度比(項目14については、一昨年度比)で保護者のAB評価がダウンしている。新型コロナウイルス感染拡大予防のために、保護者の学校や地域社会に対する意識が一層高まり、子どもへの数々の支援が、学校や地域社会と連携・協力しながら実行されているという様子を考察することができる。

○項目15の保護者への質問「学校職員は、子どもや保護者の話をよく聞き、子どもや家庭に対して適切な対応をしている」について、高い評価をいただいている。本校では、朝夕に「担任の先生とお話したい」という保護者からの電話連絡が多い。保護者の期待や要望に応えるべく、生徒のさらなる成長を職員全員が手を携えて支援していきたい。

2. 生徒・保護者の皆様からの意見について

「地域とともに歩む学校」を推進する学校運営に対しまして、保護者の皆様より多くのご賛同、ご支援いただいておりますことに感謝申し上げます。「生徒の個性を尊重した対応をしていただき、ありがたい」などという旨の記入がたくさんあり、職員一同勇気と元気をいただきました。また、生徒の皆さんからも貴重なご意見をいただきました。

以下のご意見・ご指摘いただいた点につきましては、今後、検討・改善をまいります。

(1) 通学・スクールバスについて

・バスの乗り方や自転車の乗り方(特にヘルメットの着用)についてのご意見をいただきました。年度当初にバス通生の会や交通安全教室を行い、バスの乗り方や自転車の乗り方について指導していますが、徹底できていない部分もあります。継続的に指導していきます。地域の皆様や保護者の皆様にしか見えない部分もあると思いますので今後もご連絡いただければと思います。

・休日のバス運用についてですが、バス会社に依頼していきませんがなかなか難しい状況です。引き続きお願いしていきます。

(2) 通学路について

・通学路の安全確認についてのご意見をいただきました。街灯がないところや危険な場所を地区生徒会やPTA生活指導部とも連携して確認していきます。また、必要に応じて教育委員会に要望も伝えていきたいと思っております。

(3) 学校からの情報発信について

・今年度、ホームページをリニューアルしました。ホームページアドレスは依然配布した通りですが、周知の徹底を図りたいと思っております。また、閲覧しやすいホームページになるよう努めていきたいと思っております。

・今年度もメール配信を多くさせていただきます。コロナ渦でも瞬時に連絡が伝わるようこれからも配信させていただきます。

(4) 部活動について

・活動時間や内容、送迎についてのご意見をいただきました。長野県教育委員会が示しているスポーツ活動指針に則って活動しております。多くの活動時間を確保できない中、生徒とともにより充実した活動ができるように努めていきたいと思っております。また、延長部活動時に送迎が難しい場合は、完全下校時刻に下校となります。必ず取り組まないといけない活動ではありませんので、お子さんと相談しながら参加をご検討いただければと思います。

(5) 制服などの服装について

・特に意見はありませんでした。

(6) 授業について

・生徒から「もう少し教えあう時間がほしい」との意見をいただきました。仲間同士で教え合い、学び合う授業がより進むよう授業改善を図りたいと思っております。

・先生による授業内容の差や少人数学習についてのご意見をいただきました。各教科での話し合いをより多くし、どの先生が授業を行っても子どもの学びが統一されるよう今後も務めていきます。また、少人数学習での効果を生徒自身が感じられるような工夫も考えていきたいと思っております。

(7) その他

・生徒から学校のみならず生活するためにはどうしたら良いかということに、「陰口を言わない」「レクリエーションをする」「一人ひとりの行動・言動に責任を持つ」「挨拶をする」「いじめや差別を許さない」など前向きで建設的な意見をいただきました。貴重な意見です。ありがとうございます。これからの学校生活を送る上で、生徒会や学級会などで考えていきたいと思っております。

・保護者から「いつも子供がお世話になりありがとうございます」「日々生徒一人一人と熱心に向き合って下さりありがとうございます」など日々の教育活動に対する感謝のお言葉を多くいただきました。しかし、注意の仕方や内容、生徒とのかかわり方についてのご意見もいただきました。ご意見を真摯に受け止め今後の教育活動に励んでいくとともに、保護者や地域との連携をより密にし、開かれた学校づくり、よりよい教育が提供できるよう努めてまいります。